

桑員区域内の公立・公的等医療機関の役割

区域の概要

- 2025年の病床数の必要量と2016年度の病床機能報告を比較すると、病床総数は360床過剰となっている。
- 病床機能別に比較すると、高度急性期機能及び急性期機能で536床過剰である一方、回復期機能については、483床が不足する。
- 2025年に向け、急性期から回復期への病床機能の転換を進めるとともに、全体的なスケールダウンが必要。

2016年度病床機能報告（床）

高度急性期	3
急性期	1,144
回復期	71
慢性期	571
休棟・無回答等	119
計	1,908

必要病床数と病床機能報告との差

高度：▲111
急性：647
回復：▲483
慢性：188
計：360

2025年必要病床数（床）

高度急性期	114
急性期	497
回復期	554
慢性期	383
	-
計	1,548

2025年に向けた公立・公的等医療機関の役割の方向性

地域医療構想の実現に向けては、医療機関の自主的な取組及び医療機関相互の協議によって、医療機能の分化・連携を進めていくこととなりますが、2025年に向けた公立・公的等医療機関の役割の基本的方向性は以下のとおり。

- 桑名市総合医療センターは、桑員構想区域の高度急性期・急性期医療や救急医療の中心的な役割を担うとともに、周産期医療の県最北端の拠点としての役割を担う。
- いなべ総合病院は、いなべ市唯一の総合病院として、いなべ地域の急性期医療について、中心的役割を担うとともに、回復期機能についても対応する。また、いなべ地域の基幹病院として、行政、医療機関、訪問看護が一体となった地域包括システムの構築を目指す。

※なお、役割の方向性に見直す必要が生じた場合には、改めて地域医療構想調整会議で協議することとします。